

西小は 大きな 家族

Family

～校長のたわいもない独り言・その2～

令和元年 9月 24日 (火) No.29

発行人

東京マラソンの抽選は落選だった
～の川崎先生。またかぁ～(T_T)

■” 稲こぎ” by3年生 9/17 (火) ■

連休明けの火曜日に3年生と稲こぎ。とはいえ、今回はハーベスタ使用のため、そのほとんどは機械がやってくれるので、3年生はその様子の観察と、稲をハーベスタに入るところがメイン。そうは言っても回転する機会なので、子どもたちは恐々で腰が引け気味。無理もないか(^_^;)。でも田んぼはちっちゃいので、それこそあつという間の作業でした。らくちんです(^-^)

自分たちが食べているお米が、このような作業の連続の中から収穫されるという事を知ることは、西地区に住む者として、棚田に囲まれる者として、地域理解を深めるためには必要な事ですね。そして一人前の”おてこ”になるためにも通る道ですね(^)v。

●子どもには子どもなりの理由があるのだろう・・・●

落ちていた木の棒を5～6本集めている1年生男の子。「どうするの?」と聞くと「学校の帰りに使う」のだと言う。教室へ持っていけないから、電話ボックスの後ろに隠しておくと言う。「帰りに何するの?」と聞くと「わからない」との返事。うん、そんなもんだ。まっすぐな桑の棒って大切だし、丸い石とかも宝物だしね\(@o@)/

わざわざ蝉の抜け殻を拾って持ってきて服につけてくれるのだって、きっと意味があるんだよね。道端に落ちていた稲穂だって、わざわざ拾って持ってきてくれるのも、そこには必ず意味があるし・・・。

別にその理由は何だっていい。ただただそんな行動には本当にほんわかする。その場に居合わせる事、その姿を目にすることが一番。自然と笑みがこぼれる。

★4年生が収穫した麦を製粉したら★

「こんなになりました～♪」と築野tが笑顔で見せてくれた。今年の麦は豊作だったらしく、バケツに二杯分くらいの小麦粉になった。これを「ほうとう」にして麦づくりの講師の大桐さんに振る舞う。育てて、収穫して、製粉して、料理して、食す。いいなあ、この学習。食の原点を感じる。ほうとうとその他は何つくるんだろ?楽しみ～(^)v。えっ?、川崎は関係ないって・・・(T_T)。

◆西小の伝統として◆

運動会は、全校を「赤・青・黄」の3色にわけ、それぞれの色別のリーダーは6年生がやり、その応援団は5年生が行う。毎年感心するけど、6年生の自立した頼もしい姿と、5年生の人前で物おしせず堂々と声を出す姿。小学生って子どもだけど大人～と感じる瞬間。先生方はなるべく子どもたちに自主性がつくように、まわりでそっと見守っている。だから、小学生であってもいろんなことが出来るようになる。まだまだ子ども～と思っていると、その成長の様子にびっくりします。ぜひ当日は、そんな子どもたちの自立した姿も楽しんでください\(@o@)/!